

オオキビガイの寄生虫について

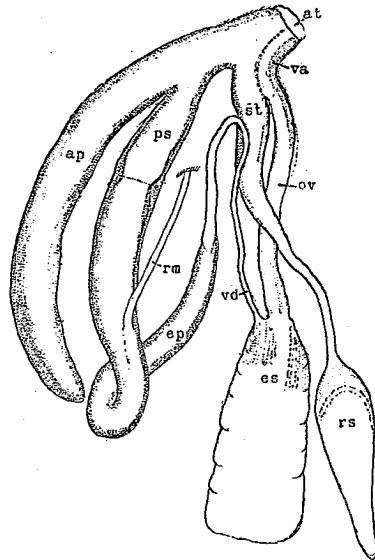
東 正 雄

Notes on the parasite and the genital-gland of *Trochochlamys gudei* (Pilsbry et Hirase) 1902.
by Masao Azuma (挿図 Text-fig.1)

1902, Kaliella, Nautilus, vol. 16, p. 79. オオキビガイ
分布: 北海道 (美幌、滝沢、渡島、石狩); 陸奥。

1954年夏、北海道採集旅行の時、定山溪近くの滝沢
附近で7月24日採集した、オオキビガイの軟体部のア
ルコール漬標本を解剖していた時、小腸内部に寄生虫
を発見、早速阪大森下教授の研究室へ1個体を送り同
定を依頼した。私の調査では *Nemathelminthes* 線形
動物 *Nematoda*, *Nematomorpha* 線形目に属するこ
とは確であるが、属名、種名は未詳である。或は新種
であろうか。小腸部に3個体が螺旋状になつて発見さ
れた。全長6 cm位、厚0.2 mm位の線形動物で表皮に
何の標徴も肉眼では不明、現在2個体70%アルコール
漬として保存している。

序にオオキビガイの生殖腺の記載を次に述べる。輸
卵管(ov) 3 mm位、略々均一様の厚さ; 輸精管(vd)
7 mm内外、後端多少太くなる; 陰茎本体(ep) 5 ~
6 mm、反曲して次第に太くなる。その索引筋(rm)
は(ep)の略々中央部から起生している; 陰茎鞘(ps)
1 mm、極く短い明瞭に存在している; 陰茎附属器
(ap) 4 mm、極めて厚筋層明瞭、先端急にとがる; 腦



(va) 0.5 mm、極めて短い; 受精嚢柄部(st) 4 ~
5 mm、その基部著しく太いが、次第に遠端へ細くな
る; 受精嚢(rs) 3 mm内外、基部著しく太いが終端
へ急に細くなる。

ヒメキクバスミレ

福 田 菊 市

筆者は昨年5月但馬の最南部播磨国境近くの生野町
白口で、ヒメキクバスミレ *Viola ibukiana* Mak. ら
しきものを2株採集していた。当時は既に花は終つて
見る事が出来ず拙稿「但馬朝来郡産スミレ属植物」で
は、葉の説明のみとなつて終つた。

其の後2株共栽培していた処、今春その1株がやつ
と芽を吹き草勢は余り良くないが1花を付け4月15日
に開花したので花の状態を知る事が出来た。御参考ま
でに報じておきます。花は淡紅紫色で濃紅紫色条が
ありシハイスミレの花に酷似しているが側弁内側の毛茸
がシハイスミレの無毛に対して本種は有毛である点が

異なる。弁距は稍長く先は円い、萼片は淡褐色を呈して
いる。本種の自生地付近にシハイスミレとエイザンス
ミレが自生している事や葉の色や質、花色等から見
ると個体数が少なく断定するところまでは行かないが筆
者が最初考えた通り本種はシハイスミレとエイザンス
ミレとの雑種と見て間違いないと思うのである。

尙本種によく似たものにフギレシハイスミレ、カツ
ラギスミレ等があると聞いているが筆者未知のもので
あり浅学の筆者の事故果して本種がヒメキクバスミレ
なるや疑問も持つ訳であるが兎に角、見たままを報じ
た事をお断りしておく。 1956. 4. 17記